笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３４３号
平成２７年７月１日

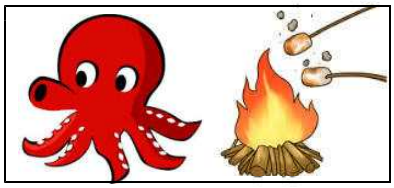
練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

た　こ　焼　き　・　山　登　り

校　長　　鈴木　隆志

先月、６年１組の子供たちは、３泊４日の下田移動教室に出かけました。６年生の光っ子たちは、４月から、光八小のリーダーとして、１年生のお世話を中心に下級生たちの手本となるような活動を続けてきています。下田での四日間では、仲間のため、そして自分の成長のため、充実した有意義な生活を過ごし、より逞しくなって、より優しくなって、帰ってきました。

下田に向かうバスの中での出来事です。バスレクの係の子が、たくさんの準備をして臨み、大いに盛り上がっていました。バスレクの一つ、「当て字クイズ」の中に、次のような問題がありました。



正解は「たこ焼き」です。分かった子が手を挙げ、係に指名されて答えました。バスの中、私は前の座席にいるので、誰が手を挙げて誰が指名されたのか、姿は見えません。見えなくても、声を聞けば誰だかは分かります。「たこ焼き！」と答えた子の声を聞き、私は感動してしまったのです。

話は二年前にさかのぼります。この子たちが４年生の時の「１／２成人式」です。式の終わりに、一人一人が親への感謝の気持ちを手紙にしたためて、それぞれの親の前で発表しました。一人の子が「一緒に出かけた時に、たこ焼きをごちそうしてくれてありがとう。」と、思いを伝えていました。そうなんです。先ほどのクイズに答えたのは、この子だったのです。

「三つ子の魂百まで」という諺がありますが、小さい頃に経験したことは大人になっても残るものです。たこ焼きが大好きなこの子も、大人になって例え親と衝突する時が来たとしても、たこ焼きのことはきっと忘れないでいるのでしょう。親がかけた愛情は、将来、形を変えて返ってくるものなのかもしれません。

わかば学級の子供たちは、２泊３日の軽井沢宿泊学習に出かけてきました。初めて宿泊を経験する１年生も、６年生や５年生の上級生たちに支えられ、楽しく三日間を過ごしました。わかば学級では１年生から６年生までが、毎年２回の宿泊学習を実施しています。子供たちは、仲良く協力しながら寝食を共にし、様々な経験を積んで逞しく成長をしていきます。

今回の池の平湿原ハイキングでの出来事です。わかば学級のハイキングは、個々の体力に応じて、Ａコース、Ｂコース、Ｃコースに分かれて歩きます。ある６年生の子が「僕は今年初めてＡコースに挑戦します。頑張って歩きます。」と、決意を語っていました。Ａコースは、東篭ノ登山（ひがしかごのとやま）への山登りです。いつもならすぐに弱音を吐いたり諦めたりしてしまうこの子ですが、今回は全く様子が違っていました。「つらい」とか「もうだめだ」とか弱気な言葉は一つも口に出さず、黙々と険しい山道を登っていきます。そしてついに、２２２８ｍの東篭ノ登山の山頂に立つことができたのです。彼は、「やったぁ！」と歓喜の声を上げ、体いっぱいに達成感を感じていました。

自尊感情や自己肯定感（自分自身を大切な存在だと思う気持ち）は、生活体験や自然体験が豊富な子供ほど高いと言われています。また、お手伝いや下級生のお世話など、自己有用感（他者のために役に立っているという気持ち）も欠かせません。たこ焼き少年にも山登り少年にも、こうした思いが着実に身に付いています。そして、このような営みこそ、光八小が大切にしている教育なのです。